

○平成 24 年 9 月 26 日 行財政局

1. 債権管理対策について

(北山議員)

行財政改革とは歳出の見直しと歳入の確保を車の両輪として取り組んでいくべきものである。歳入の確保策として財源の涵養や債権管理対策が重要である。債権管理対策については、平成 20 年 7 月に市長を本部長とする債権管理対策推進本部が設置され、未収金の回収に努力してきていることを高く評価している。しかし、先日発表された平成 23 年度の実績として「未収金額 22 億円圧縮」の結果については不満である。未収金が圧縮されたというが、依然として 387 億円という巨額の未収金が残されていること、本部を立ち上げた際の圧縮目標である 69 億円の削減がいまだ達成されていないこと、さらに、各債権の徴収率についてみると、市営住宅の使用料は指定都市中 1 位ではあるが、保育所保育料の徴収率については指定都市比較でも最低の水準に近いということから、まだまだその取り組みは不十分である。保育料はさまざまなことが勘案されて決定しているため全額徴収できて当たり前であると思っているので、徴収率は非常に悪い。住宅使用料等を支払うのは国民、市民の義務であり、また収入等に応じた一定の配慮がなされている。その上で滞納があるということは、市民負担の公平性やモラルハザードを許さないという公正性の観点から、神戸市職員は滞納者からある意味「鬼」、「邪」と呼ばれたとしても、断固として回収に取り組むべきである。歳入の確保、財源の涵養のためにも、行財政局としてあくまで未収金ゼロを目標に尽力すべきと考えるが、今後どのような決意で取り組まれるのか。子育て日本一のまちをつくると言っているが、それは保育所の待機児童をなくすと言っているわけではなく、教育、住宅、交通、医療費等について、日本で一番良く配慮された都市を目指すという視点であり、もし未収金の回収ができれば今述べたことが全てできていると思っているので、そのような意味をこめてご見解を伺いたい。

(玉田行財政局長)

債権管理対策推進本部は平成 20 年 7 月に立ちあげ、それまでは各局がそれぞれ対応していたものを全庁で取り組むため市長、各局長をメンバーとして始めたものである。実績としては、当初 3 年間は 69 億円の圧縮目標に対して約 6 割の達成率であったが、23 年度末時点で 64 億円圧縮でき、これにより、ほぼ当初の目標のところまで来たと思われる。23 年度は、財産の差押、支払の督促、強制執行などの強制徴収を行ったほか、弁護士法人への徴収委託などの民間委託を活用することにより、市税、国保料などについて、目標を上回る回収を行うことができ、22 億円圧縮できた。しかし、たしかに、3 年間の目標には達していないため、まだまだであると考えている。保育料の徴収率については、政令指定都市のなかで非常に低い数字ではあるが、23 年度より係長・担当各 1 名、嘱託職員 4 名という専任体制を新たに設け、財産調査や差押対象の拡大など、取り組みを強化した結果、徐々に成果が出てきている。24 年度からはさらに財産調査や給与照会の対象拡大や初期滞納者への面談の早期実施など取り組みを強化し、27 年度に中位を目指すという目標をたてている。対策本部ができるまで

の体制と比べ、各局の意識が変わってきており、債権の回収について、他局の手法を適用できるものは取り入れていこうという意識が浸透してきているのではないかと思われる。それをしきるのが行財政局とされているため、今後も情報提供や相談に応じるなど、連携を密にしていきたい。また、本部会議では各局長が市長、副市長に債権について報告を行うことにより、自分の責任でやっていかななくてはならないという認識を十分にもっているため、この体制をこれからも続け、未収金ゼロを目標に尽力していきたい。

（北山議員）

徴収については厳しい心積もりでやっていかないといけない。同じ水準で計算し払ってもらえる金額を出しているため、徴収できて当たり前であり、徴収できなければ不能欠損で処分してしまう、それでも未収金が増えてしまうということがないように全力で取り組んでいかないといけない。

「鬼」「邪」といわれてもやるという心積もりで、優しい顔をせず、厳しく行っていくべきである。そうしないと厳しいなかから払い続けている方に対して不公平だと思うが、決意を聞かせていただきたい。

（玉田行財政局長）

税金などの債権についてきっちり徴収していくことは公平性の面から非常に大切なことであるので、努力していきたい。すでに、徴収担当職員は「鬼」「邪」と日ごろ言われながら徴収を行っている。丁寧に説明し、徴収する努力もしているところであり、これからも徴収努力を続けていきたい。

（北山議員）

いっそうの徴収の努力をしていただき、行財政局として立派な成績をあげたということになるようにしていただきたい。